

私をはじめて中国を訪れたのは確か1988年ころだったと思う。日中国交回復が1972年だから、かなり後のことである。その頃は北京空港から市内までの道は柳の並木道で、野菜や燃料を運ぶ馬車が行き交っていた。道路沿いでは馬車で運んで来たスイカを並べて売っていた。北京市内は自転車の洪水で、タクシーを拾おうと思っても、外国人が多く泊まる北京飯店の前でしか拾えなかった。外国人用の商店は友誼商店という国営の商店で、外国人目当てだから、墨と硯、筆などばかりたくさん並べてあった。

そんな中で、中国中央テレビ(CCTV)の人たちの気配りと誠実さ、それに中華料理のうまさには感動した。

北京の街を歩くと漢字で書かれたさまざまな看板に出会う。なかには外国語を漢字で表記したものもあり、漢字で外国語を書くことのむずかしさを実感する。可口可樂(コカコーラ)、麦当劳(マクドナルド)、肯德基(ケンタッキー)などは漢字の音を使って外国語をあらわしたものである。

### 漢字看板考

中国では今でも仮名やアルファベットにあたる表音文字はなく、漢字だけを使っている。外国語の地名や人名を表記するにはさまざまな工夫が行なわれている。

可口可樂 百事可樂 勞力士 派克 柯達 登喜路  
 コカコーラ ペプシコーラ ローレックス パーカー コダック ダンヒル

日本漢字音に慣れ親しんだ日本人には、初見では分かりにくい。しかし、現代中国語音と日本漢字音の違いがこれによってわかる。現代の北京音では、これらの看板はつぎのように読む。

麦当劳(mai-dang-lao)、肯德基(ken-de-ji)、可口可樂(ke-kou-ke-le)、百事可樂(bai-shi-ke-le)、勞力士(lao-li-shi)、派克(pai ke)、柯達(ke-da)、登喜路(deng-xi-lu)

現代の北京語では麦、徳、樂、百、力、克、達などの韻尾の子音はすべて失われている。

日本でも明治時代までは漢字を使って外国語を表記した。日本語のローマ字表記を考案した「ヘボン」は「平文先生」と呼ばれた。ヘボンはHepburnである。戦後のハリウッドのスターはオードリー・ヘップバーンもキャサリン・ヘップバーンも、ともにHepburnであるが、日本語として発音しにくいからヘボン先生の場合は「平文」になった。

北京や上海の街角では日本の企業の広告も目に付く。

佳能 柯尼卡 美能達・万能达 ニック・尼康 新力 山叶  
 キヤノン コニカ ミノルタ ニコン ソニー ヤマハ

現代の中国では簡体字が使われているので、読めないものもある。カは中国でも大流行のカラOK(カラオケ)の「カ」である。達は達である。山叶は山葉である。新力(ソニー)、

山葉（ヤマハ）などは訓（意識）である。

佳能、尼康は現代北京音では佳能(jia-neng)、尼康(ni-kang)であるが江南音では-ng は-n に近く佳能(jia-nen)、尼康(ni-kan)と聞こえる。上海は商都だから、外国製品にもその影響があらわれるのだろうか。

山葉「ハマハ」のように、音によらないで意味を生かして漢字で書いている例としては、富士、五十鈴、豊田、三菱などがあげられる。この場合には山叶(shan-ye)、富士(fu-shi)、五十鈴(wu-shi-ling)、丰田(feng-tian)、三菱(san-ling)となる。

現代の中国では外国語からの借用語もよく用いられていて、みんな漢字で書かれている。

巴士（バス）、的士（タクシー）、的士高（ディスコ）、咖啡（コーヒー）、啤酒（ビール）、  
三明治（サンドイッチ）、三文魚（サーモン）、沙律（サラダ）、热狗（ホットドック）、  
奥林匹克（オリンピック）、高尔夫（ゴルフ）、保齡球（ボーリング）爱滋病（エイズ）

「热狗」や「保齡球」、「爱滋病」などは、発音を表わすばかりでなく、漢字の意味も加味されているようにみえる。啤酒や三文魚もそれぞれ酒、魚であることが文字のうえでも示されている。

## 簡体字

簡体字には丰（豊）のように旧字「豐」の一部をとったもの、草書体を取り入れたものなどがある。

- 漢字の一部：广 guang（広）、乡 xiang（郷）、飞 fei（飛）、气 qi（気）、云 yun（雲）、  
归 gui（帰）、业 ye（業）、儿 er（児）、夸 kua（誇）、茧 jian（繭）、
- 草書体の例：马 ma（馬）、专 zhuan（専）、传 chuan（伝）、见 jian（見）、贝 bei（貝）、  
鸟 niao（鳥）、鸣 ming（鳴）、车 che（車）、记 ji（記）、银 yin（銀）、
- 簡略化の例：义 yi（義）、议 yi（議）、汉 han（漢）、欢 huan（歡）、时 shi（時）、  
桥 qiao（橋）、运 yun（運）、冈 gang（岡）、钢 gang（鋼）、网 wang（網）
- 表音化の例：几 ji（机・飢、幾・機）、发 fa（髮・発）、历 li（歴・暦）、干（乾）、  
药 yao（薬）、里 li（裏）、华 hua（華）、园 yuan（園）、样 yang（様）、
- 創作字の例：笔 bi（筆）、众 zhong（衆）、队 dui（隊）、孙 sun（孫）、泪 lei（涙）、  
认 ren（認）、阴 yin（陰）、阳 yang（陽）、尤 you（憂）、优 you（優）、

外国の地名も、中国語ではカナ書きにすることができないので漢字で書く。

巴黎（パリ）、罗<羅>馬、（ローマ）、米兰<蘭>（ミラノ）、伯尔尼（ベルリン）、维  
<維>也納（ウイーン）、莫斯科（モスクワ）、华<貨>盛頓（ワシントン）、纽<紐>  
约<約>（ニューヨーク）、圣<聖>弗朗西斯科（サンフランシスコ）、洛杉矶<磯>（ロ  
サンゼルス）、夏威夷（ハワイ）、火奴鲁鲁<魯魯>（ホノルル）、新加坡（シンガポー  
ル）、菲律宾<賓>（フィリピン）、马<馬>尼拉（マニラ）、越南（ベトナム）、胡志明  
（ホーチンミン）、河内（ハノイ）

パリは日本では「巴里」とも書く。漱石には『倫敦塔』という作品がある。明治の日本人はロンドンを「倫敦」と表記した。地名や人名の漢字による表記は、必ずしも統一されていたわけではない。福沢諭吉はロンドンを「竜動」と書いている。「倫敦」も「竜動」も日本漢字音ではロンドンとは読みにくい。当時の中国人が書いたものに倣って書いたか、あるいは上海、香港あたりに来ていたイギリス人が使っていたものを流用したものであろう。「倫敦」の現代北京語読みは倫敦(lun-dun)であり、「竜動」は竜動(long-dong)である。「竜動」は日本漢字音ではロンドンとは読めない。上海語では-ng が-n に近いので「竜動」は外国に対して早くから開けていた上海語の発音を反映しているかもしれない。しかし、同じロンドンを表わすのに「倫敦」と書く人と「竜動」と書く人がいたのでは、それが同じ地名を表わしているのか、違う所なのか分からなくなってしまう。

「河内」はベトナムでは河内(Hanoi)であり、日本では河内「かわち」である。ベトナムという国名自体が中国語の「越南」のベトナム語読みで越南(Viet-nam)である。トンキン湾も漢字で書けば東京湾(Tong King)となり原音に近い。

「東京」とは江戸のことだが、明治になってから東京「トウキョウ」と読むべきか東京「トウケイ」と読むべきか定まらなかったという。電車の京浜急行などは京浜「ケイヒン」であり、関西でも京阪神は京阪「ケイハン」である。地名や人名の漢字表記は、書き方も読み方はそう簡単ではない。書く方と読む方に共通の理解がないと、理解できないばかりか、地名の場合は行く先を取り違えてしまい、人名の場合は人違いをしてしまうことにもなりかねない。

現在の中国では、外国人の人名を漢字で表記する方法が決められている。新華通信社訳名資料組編の『英語姓名訳名手冊』(第2次修訂本・商務所書館1991年)にはつぎのような例をあげられている。

乔<喬>治(ジョージ)・布什(ブッシュ)、约<約>翰(ジョン)・肯尼迪(ケネディ)、尼克松(ニクソン)、福德(フォード)、弗兰<蘭>克林(フランクリン)・罗<羅>斯福(ルーズベルト)、亜伯拉罕(アブラハム)・林肯(リンカーン)、温斯顿頓(ウィンストン)・邱吉尔<爾>(チャーチル)

日本人の名前は漢字で表記すると、中国では中国語読みになる。小林(xiao lin)、田中(tian zhong)、鈴木(ling mu)、佐藤(zuo teng)、小泉(xiao quan)などとなる。

日本の地名や人名を、はじめて漢字で表記しようとした史(ふひと)たちは、現代の中国人が漢字だけを使って外国の地名や人名を表記するときに直面するのと同じ問題に出会ったに違いない。

ペリーが浦賀に来た直後に、ロシアのプチャーチンが艦隊を従えて長崎に入港した。当時の日本では英語もロシア語も通じなかったので、国書には母国語のほかに、漢文とオランダ語の翻訳が添えられていた。ロシアの国書の冒頭には「大君皇帝首仁幸来」とあった。漢学者は「首仁幸来」という部分が解読できなかった。「仁を首(はじめ)として幸が来る」と読み下したが、意味が通じない。オランダ語訳では「首(はじめ)の仁幸来(にこらい)」と

なっていたので、「仁幸来」が「ニコライ」であることがろうじて判明したという。地名や人名などの漢字表記は字義にまどわされやすい。外国語を漢字で表記することは、今も昔もむずかしい。

### 中国の国語教科書

現在中国では小学校の低学年からローマ字による国語教育を行っている。小学校の教科書には、表紙からローマ字が併用されていて『語文』(yu wen)と現代北京語の読み方がローマ字で示されている。現代の普通の日本人は「語文」と書いてあれば「ゴブン」と読むことはできても「ユ・ウェン」とはなかなか読めない。カラー印刷で絵入りの教科書を開いてみると、現代中国語を学ぶいい教材になっている。

看	音	节	读	字	音														
kan	yin	jie	du	zi	yin														
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十										
yi	er	san	si	wu	liu	qi	ba	jiu	shi										
上	中	下	大	小															
shang	zhong	xia	da	xiao															
日	月	水	火	山	石	田	土	井	刀	弓	车	舟	气	云					
ri	yue	shui	huo	shan	shi	tian	tu	jing	dao	gong	che	zhou	qi	yun					
雨	电	马	牛	羊	毛	人	头	耳	目	口	牙	木	禾	米					
yu	dian	ma	niu	yang	mao	ren	tou	er	mu	kou	ya	mu	he	mi					
豆	瓜	鸟	飞	爪	虫	出	入	来	去										
dou	gua	niao	fei	zhao	chong	chu	ru	lai	qu										

文字も日本の漢字とかなり違っているが、発音は日本の漢字音と同源だとは思えないほど違ってしまっている。簡体文字はそれぞれ、节<節>、读<読>、车<車>、气<気>、云<雲>、电<電>、马<馬>、头<頭>、鸟<鳥>、飞<飛>である。中国では文字を簡体文字にするばかりでなく、象形文字をアルファベットで表記して北京の発音が全国どこでも理解できるようにしようとしているのである。

中国ではテレビの番組も北京語を理解できない人のために、漢字を字幕で示している。中国語は北京語、広東語、福建語、上海語などの方言があり、これらの方言は相互に理解することはほとんどできない。ヨーロッパでいえばドイツ語とオランダ語、あるいは英語とドイツ語ほどに違う。

同じ漢字を広東の小学生が読めばどうなるか、比較してみるとつぎのようになる。

	看	口	火	下	小	气	二	日	人	云	禾	五	
[北京]	kan	kou	huo	xia	xiao	qi	er	ri	ren	yun	he	wu	
[広東]	hoan	hau	fo	hah	siu	hei	yih	yaht	yahn	wahn	woh	ng	

牙 瓜 音 三 节 一 七 月 读 目 六 十 入  
 [北京] ya gua yin san jie yi qi yue du mu liu shi ru  
 [広東] ngah gwa yam sahm jit yat chat yuht duhk muhk luhk sahp yahp

中国は革命後漢字を簡略化した。そして、さらにその漢字の読み方を、表音文字であるローマ字によって小学校の段階から教えて、北京語の発音を共通語としていこうという試みが続けられている。

日本漢字音は主として唐代の漢字音に依拠している。千数百年の間に、中国語の発音も変わり、日本語の発音も変わった。どちらかといえば、日本漢字音のほうが中国語の古いかたちを留めているといえる。北京語は元代に韻尾の子音を失ったので、日本漢字音は北京語よりも広東語に近い。

#### 中国語・朝鮮語で読む日本国憲法

日本は明治以降ヨーロッパから輸入された新しい概念を、漢語に翻訳して日本語に取り入れた。現代の日本語の文章には漢語、漢訳語が多く使われている。日本国憲法の文章も漢訳語を多く使っている。日本国憲法第9条を例に、日本語と中国語訳とを比べてみることにする。さらに日本語、中国語、朝鮮語の関係を示すために、朝鮮語訳もつけ加えた。(比較をわかりやすくするために、ここでは簡体字の中国語の原文を日本式漢字にあらためた。また、ハンゲルの部分は読みやすいようにアルファベットで表記した。)

[日本語の原文]

第九条「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」

[中国語訳] (原文は中国簡体字)

第九条「日本国民 真诚希求 基于正义 与秩序的 国际和平、永远放弃 以国权发動的战争、以武力威嚇 或武力行使 作为解决 国际争端的手段」(『日本政治概論』東方出版社による)

[朝鮮語訳] (ローマ字の部分の原文はハンゲル)

第九条「日本国民 neun、正義 wa 秩序 reul 基調 ro ha neun 国際平和 reul 誠実 hi 希求 hago、国権 nui 発動 in 戦争 gwa、武力 eui han 威嚇 tto-neun 武力 ui 行使 neun、国際戦争 eul 解決 ha neun 手段 eu ro seo neun、永久 hi i reul 放棄 han-da」(『日本近代化研究』高麗大学出版部による)

日本語の原文で漢字で表記されている部分は、中国語訳でも朝鮮語訳でもほとんど同じである。しかも、日本語と朝鮮語は語順も同じであることが見てとれる。

[日本語] 日本国民、正義、秩序、基調、国際平和、誠実、希求、国権、発動、戦争、  
[中国語] 日本国民、正義、秩序、基于、国際和平、真誠、希求、国権、発動、戦争、  
[朝鮮語] 日本国民、正義、秩序、基調、国際平和、誠実、希求、国権、発動、戦争、

[日本語] 武力、威嚇、行使、国際紛争、解決、手段、永久、放棄  
[中国語] 武力、威嚇、行使、国際争端、解決、手段、永遠、放棄  
[朝鮮語] 武力、威嚇、行使、国際戦争、解決、手段、永久、放棄

言語を文法構造と語彙に分けると、日本語の文法構造は朝鮮語と同じであり、中国語とはかなり違う。語彙は日本語、中国語、朝鮮語に共通のものが圧倒的に多い。

憲法第1条についても同じような対応がみられる。

[日本語の原文]

第一条「天皇は、日本国の象徴であり日本国民統合の象徴であつて、この地位は、主権の存する日本国民の総意に基く。」

[中国語訳] (原文は中国簡体字)

第一条「天皇是 日本国的象徴、是日本国民 統一的象徴、其地位 以主権所在的 全体日本国民的 意志為依拠。」

[朝鮮語訳] (ローマ字の部分の原文はハングル)

第一条「天皇 eun 日本國 ui 象徴 i yo 日本國民統合 ui 象徴 in koe tti myeo i 地位 neun 主権 neul ka jin 日本國民 ui 總意 e pa ttang eul keo tti da」

日本人は、明治時代以降の近代化の過程で、西欧から輸入した新しい概念を漢語に翻訳した。それが中国や韓国で使われるようになって、日本語、中国語、朝鮮語の共通語はむしろ増えている。西周や福沢諭吉が、西洋の概念を漢語に翻訳しえたのは、中国の古典を読んでいる、西洋の新しい概念に相当することばを、中国語のなかに見出しえたからである。「会議」、「演説」などは福沢諭吉が広めたことばだとされている。丸山真男によれば、「主権」などのことば、はむしろ上海で早くから翻訳語として使われていたようである。

中国は革命後簡体漢字を使っているのだから、日本で使われている漢字と違うものもある。また韓国は漢字を制限しているのだから、一般には使われなくなってしまう漢字も多い。しかし、漢字で表記してみると、日本語、中国語、朝鮮語は現在も多くの語彙を共有していることがわかる。もちろん中国語、朝鮮語、日本語はそれぞれ音韻体系が違うから、同じ漢字を使っても読み方は違う。語彙は共有しているものの、読み方はちがうから、筆談はできる

が、はなしことばとして理解できるわけではない。

例：	戦争	放棄	正義	秩序	希求	武力
中国語	zhan zheng	fang qi	zheng yi	zhi xu	xi qiu	wu li
朝鮮語	jeon jaeng	pang gi	jeong ui	jil seo	hui gu	mu ryeok

言語学的にみれば、日本語と朝鮮語はともに膠着語であり、アルタイ系言語である。中国語は孤立語であり日本語とは系統も違い、語順も文法も違う。中国語には四声があり、日本語や朝鮮語にはない。日本語も朝鮮語も漢字の国、中国のすぐ近くであり、多くの中国語の語彙を取り入れてきている。日本語と中国語、朝鮮語の文法を比べてみると概略次のようになる。

	日本語	中国語	朝鮮語
<b>【統語】</b>			
○主語＋目的語＋動詞		●	○
○助詞を多く使う膠着語		●	○
○形容詞＋名詞		○	○
○丁寧語・謙讓語がある		●	○
<b>【形態】</b>			
○動詞の活用あり		●	○
○冠詞なし		○	○
○前置詞なし		○	○
○名詞の性別なし		○	○
○単数・複数の区別なし		○	○
<b>【音韻】</b>			
○開音節（母音で終わる音節）		●	●
○語頭に濁音なし		●	○
○l・r音の区別なし		●	○
○声調（四声）なし		●	○

ことばを言語の構造からみれば、日本語は朝鮮語に近く、中国語とは疎遠である。しかし、これだけ多数の中国語の語彙を受け入れたということは、文化的、社会的にみれば、日本語も朝鮮語も漢字文化圏の言語であるということになる。中国文明という漢字文化を背景とした文化の力が、圧倒的な力をもっていたからにほかならない。

ヨーロッパの言語についても、英語とフランス語では文法の構造はかなり違うが、両者ともギリシャ・ローマの文明の影響を強く受けて、語彙はむずかしい単語ほど共通のものが多く、ということがいえる。

語彙を中心に考えれば、中国語、朝鮮語、日本語は漢字文化圏の言語であり、文法の構造を中心に考えれば、日本語と朝鮮語は同系の言語であるということになる。

最初に北京を訪れたのは夏の時期で、今日は七夕だな、七夕の行事は万葉集の時代に中国から伝わったものだから、中国ではどのように祝うのかな、と思っていたが、どうも七夕を祝う様子はない。中国語の新聞は読めないでホテルで英字新聞を買ってみると、今日はMarco Polo Bridgeの記念日だという。Marco Polo Bridgeとは盧溝橋の英語名で、『東方見聞録』を書いたマルコポーロが13世紀に北京を訪れたとき最初に通ったのがこの橋だとされている。盧溝橋事件は中国では「七七(チーチー)事変」と呼ばれ抗日記念日であった。七夕飾りは見られなかった。盧溝橋の近くには抗日記念館などがあり、日本人の生体解剖の人形などが展示されていた。

定年後女房と北京を訪れたときは秋だった。中国では月餅は中秋の名月のころにだけ食べる。ホテルのロビーで月餅を売り出していたので月餅を買って食べようかと話していると、今日はチュー・イッパーだという。9.18である。何の記念日か思いあたらない。どうも9月18日は柳条湖の日、満州事変勃発の日であるらしい。このようにして中国の暦は7月7日(チーチー)の盧溝橋事件から9月18日(チューイッパー)の満州事変、そして10月1日(シーイー)の国慶節(建国記念日)へと進んで行くのである。歴史認識の違いの深さを感じざるをえない。

次回はタミル語